

## 【報告事項 1.】 令和 7 年度事業報告の件

令和 7 年度は、翌年に控えた「第 41 回世界獣医師会大会（WVAC2026）」に向けた準備が加速するとともに、本会が長年推進してきた「ワンヘルス」の理念が行政・社会において大きな実を結ぶ、極めて重要な 1 年となった。

### 世界獣医師会大会への準備と国際的視野を会員へ

2026 年 4 月に日本で 31 年ぶりに開催される「第 41 回世界獣医師会大会（WVAC2026）」に向け、地元獣医師会として会員への積極的な周知と参加促進を行った。本大会は、世界の最新知見に触れることで獣医師の専門性と倫理性を高め、社会からの信頼を確固たるものにする有用な機会であることを発信した。その結果、本会会員及び同伴者合わせ 200 名を超える事前登録が行われた。

また、韓国大邱で開催された「FASAVA 2025 大邱大会」において、初の発表者支援企画を行った。当初は 3 名の支援を予定していたが、6 名の演題発表者が応募されたことに対し、再度協議し、6 名全員に対し、渡航費の一部支援をした。本支援は若手会員の育成や国際水準の臨床レベル向上に寄与するものであり、参加会員からも高い満足度と継続を望む声が寄せられた。特筆すべき成果として、大邱大会で発表された 295 演題の中から、本会会員の 2 名が「ポスターセッションアワード」を受賞した。これは東京都獣医師会の臨床・研究力が国際的に高く評価された象徴的な出来事であり、支援制度の有効性を強く裏付ける結果となった。

### ワンヘルスの推進と東京都議会決議

本会活動を包括する考え方である「ワンヘルスアプローチ」については、獣医師だけでなく、広く都民に広め、社会生活に反映していく必要があるので、セミナーや都民向けの普及啓発活動などを積極的に推進してきた。そのような中、令和 8 年 3 月 27 日の東京都議会において、議員提出議案「ワンヘルスの推進に関する決議」が決議された。本決議は、世界獣医師会大会を契機に都がワンヘルスの理念を世界へ発信する役割を担うことや、持続可能な社会基盤の構築、人と動物の共生価値の再創造を目指すことを宣言するものである。これは、本会がこれまで東京都や医師会、有識者と連携し、粘り強く働きかけてきた「ワンヘルス条例」制定に向けた、確実かつ大きな一歩であると確信している。

### 組織力強化と会員支援の施策

令和 7 年度においては、大規模災害への備えとして、本部・支部間の連携体制が整うまでの初動を支える「会員間互助システム（RIMOT）」の試験運用を開始した。八王子支部および町田支部がトライアルを開始した。併せて、ブロック長や VMAT 隊員ら 58 名を対象とした説明会（8/28）を通じて運用の具体化を図った。また、LINE WORKS を活用した迅速な情報伝達網の整備も進行中である。また、動物福祉に配慮した疼痛管理の普及、一部で困難となっている麻薬の入手経路安定化に向け、行政および業界団体との交渉が進展し、協力大学との開設場所についての最終調整が進んだ。

## 会員病院の人材採用支援

会員病院の人材確保支援として、今年度も合同就職説明会を2回実施した。10月の対面形式（15病院参加）では、獣医学生5名、看護学生58名が参加し、3月のオンライン形式（13病院参加）においても、獣医学生26名、看護学生49名が参加した。学生の総参加者数が増加傾向にあり、病院・学生双方にとってより良いマッチングの場として定着してきている。

## 補助犬診療券と長寿犬猫表彰

「ひかりの箱募金」については、現金での募金を停止している。集金された募金を原資とし、令和7年度については、東京都福祉保健局を通じて「身体障がい者補助犬診療券（3万円×150頭分）」を対象者へ送付した。補助犬診療券は広く利用され、令和8年3月末時点で2,457,000円の支給となった。現金募金の停止について引き続き会員へ周知徹底を行い、時代に即した新しい募金形態の構築に向けて検討を重ねている。

また、適正飼育啓発の一環である「長寿犬猫表彰」では、174病院より2,354件の申し込みがあった。表彰状と併せて明治安田生命の協力による額縁の贈呈や、470頭へのオリジナルアクリルブロック配布を行い、長寿を祝う飼い主から大きな反響を得た。

## 賛助会員とのプロジェクト

小笠原ノネコ保護活動20周年と賛助会員である富士フィルム VET システムズ株式会社創立30周年を記念した「保護猫フォトコンテスト」が開催され、譲り受けた飼い主から、86件の応募があった。「第2のニャン生を過ごしている瞬間」を選考基準として、大賞、獣医師会賞、社長賞、入選を選出した。富士フィルム VET システムズ株式会社より、賞品のフォトパネルが贈呈された。

また、賛助会員ミーティングの「ペットの価値向上」分科会による初の試みとして「お絵かきひろば」が中央行事・動物感謝デー（11/15）にて開催された。100名を超える子供たちが参加し、寄せられた96作品の中から理事会賞・賛助会員賞を選定・表彰した。これらの活動は、賛助会員との連携を象徴するとともに、次世代への動物愛護精神の普及に大きく寄与した。

## 八丈島台風災害支援

台風22号、23号により被害が生じた八丈島には、本会会員動物病院があった。会員病院に大きな被害はなかった。うち1病院が、台風の被害を受けた3組の飼い主から7頭の猫の一時預かりを行った。避難指示解除となり、2組の飼い主には猫を戻した。家屋が全壊した飼い主があったが、みなし仮設住宅でのペット飼育がみとめられなかった為、猫5頭を長期に預かることとなった。そこで本会から被災飼い主への支援として、動物一時預かり費用の一部を支援した。併せて、飼育用品（フードやトイレ用砂等）を送付した。

継続する公益目的事業としては、獣医療に関する調査研究、小動物獣医療の適正化、人と動物の共通感染症の発生予防・まん延防止、学校動物の適正飼育を通じて児童の健全育成を支援し動物愛護精神を啓発、動物の適正飼養に関する知識の普及啓発、家畜衛生対策による食の安全の確保、動物のいのち救済基金等を活用した人と動物のより良い共生社会の構築による動物福祉及び公衆衛生の向上、介助動物の適正飼育支援及びその普及啓発、小笠原諸島や御蔵島等の希少種や繁殖地の保護保全、傷病野生鳥獣の保護治療及び調査、並びに生命倫理の高揚を図る事業を行った。

# I 会務報告

## 1. 役職員の人事

### (1) 東京都庁関係：

高橋恒彦 副会長：東京都動物愛護管理審議会委員（2024年6月～）  
東京都動物愛護管理審議会小委員会委員（2025年6月～）  
東京都外来鳥獣（アライグマ・ハクビシン）防除対策検討委員会委員  
（2019年7月～2028年3月）  
高藤典靖 理事：東京都動物由来感染症検討会委員（2023年2月～2027年5月）  
鈴木 博 理事：東京都野生イノシシCSF対策協議会委員（2019年1月～）  
森 伸子 事務局長：東京都動物愛護推進協議会委員（2025年4月～）

### (2) 日本獣医師会関係：

村中志朗 前会長：顧問（2023年6月～）  
上野弘道 会長：東京地区代表理事（2021年6月～2027年6月）  
小動物臨床部会 小動物臨床委員会委員（2021年6月～2027年6月）  
特別委員会 ワンヘルス推進検討委員会委員（2023年6月～2027年6月）  
高橋恒彦 副会長：動物福祉・愛護委員会委員（2021年6月～2027年6月）  
マイクロチップ普及推進検討委員会委員（2025年6月～）  
中川清志 副会長：職域総合部会 総務委員会委員（2021年6月～2027年6月）  
動物福祉・愛護委員会委員 学校動物飼育支援対策検討委員会委員  
鈴木 博 理事：産業動物臨床部会 産業動物臨床・家畜共済委員会委員（2021年6月～2027年6月）  
藤田道郎 先生：獣医学術部会 学術・教育・研究委員会委員（2023年6月～2027年6月）  
平井潤子 顧問：危機管理室統括補佐（2023年12月～）

### (3) 株式会社損害保険ジャパン（日獣保険事業）関係：

小松泰史 監事：獣医師賠償責任保険中央審議会委員（2021年6月～）

### (4) 関東・東京地区合同獣医師連合会関係：

上野弘道 会長：東京地区代表理事（2022年6月～2027年3月）  
中川清志 副会長：監事（2021年7月～2027年3月）

### (5) その他：

上野弘道 会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会委員  
（2022年6月～）  
高橋恒彦 副会長：小笠原村愛玩動物の適正な飼養及び管理に関する審議会委員  
（2021年11月～2027年10月）  
高橋恒彦 副会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事

(2018 年 5 月～)

中川清志 副会長：社会を明るくする運動 東京都推進委員会委員

入交眞巳 理事：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事 (2020 年 4 月～)

東京都自然環境保全審議会委員 (2023 年 7 月～)

鳥獣部会委員 (2023 年 7 月～)

鈴木 博 理事：東京都農業共済組合損害評価会委員 (2022 年 4 月～2028 年 3 月)

平井潤子 顧問：環境省「人とペットの災害対策ガイドライン」の改訂などに係る検討会

検討委員 (2025 年 9 月～2026 年 3 月)

## 2. 本会の活動状況

### (1) 会議、委員会の開催状況：

会務を円滑に運営するため、定款に定める会議並びに本年度に設置した委員会等の開催状況は次のとおりである。定時総会、定例理事会、委員会等を対面形式、オンライン併用のハイブリッド形式、オンライン形式、書面形式にて開催した。

ア. 定時総会：第 14 回 6/8

イ. 定例理事会：第 1 回 4/30、第 2 回 7/28、第 3 回 10/6、第 4 回 12/19、第 5 回 3/10

ウ. 臨時理事会：開催していない

エ. 監査会：第 1 回令和 6 年度全期決算監査会 4/28、第 2 回中間監査会 12/5

オ. 会務運営会議：第 1 回 4/24、第 2 回 7/24、第 3 回 8/17、第 4 回 12/10、第 5 回 3/2

カ. 地域職域合同支部長会：5/29

キ. 支部会計説明会：開催していない

ク. 倫理委員会：開催していない

ケ. 役員候補者選任委員会：4/8、12/8

コ. 産業動物委員会：3/13

サ. 獣医公衆衛生委員会：第 1 回 10/17、第 2 回 12/23、第 3 回 2/24

シ. 都補助 人と動物の共通感染症対策検討委員会：第 1 回 10/17、第 2 回 12/23、第 3 回 2/24

ス. 都委託 獣医療広告適正化検討委員会：12/21、1/28、2/25 (動画収録)

セ. 学校飼育動物対策委員会：第 1 回 9/9、第 2 回 2/20

ソ. 危機管理・防災関係：開催していない

タ. 広報委員会：第 1 回 5/19、第 2 回 6/19、第 3 回 7/31、第 4 回 8/20、第 5 回 10/8、  
第 6 回 2/27

チ. 東京地区三学会対策委員会：5/22

ツ. 表彰審査委員会：4/24

テ. 狂犬病対策委員会：第 1 回 9/12、第 2 回 10/24

ト. 関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会：第 1 回 4/13、第 2 回 7/6、第 3 回 2/15

ナ. 東京 VMAT 運営委員会：開催していない

ニ. ワンヘルス普及啓発委員会：第 1 回 10/27、第 2 回 1/26、第 3 回 2/24

ヌ. 定款改正 (会員制度見直し) 委員会：12/24

(2) その他関係機関、他団体などの会議、委員会等の活動状況：

ア．公益認定関係：

令和6年度事業報告及び決算報告の電子申請（6/30）

令和8年度事業計画及び予算の電子申請（3/31）

イ．都庁関係：

小池百合子都知事 令和8年度予算要望（11/20）

ウ．日獣関係：

第82回 通常総会 明治記念館（6/25）

令和7年度全国獣医師会事務・事業推進会議 明治記念館（7/11）

全国獣医師会会長会議 明治記念館（11/14）

中央行事屋外行事・2025 動物感謝デーin JAPAN 上野恩賜公園（11/15）

中央行事屋内行事 国立科学博物館 日本館（9/23）

エ．関獣連関係：

第1回 関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会 山梨（4/13）

第2回 関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会 オンライン（7/6）

第3回 関東・東京合同地区獣医師会監査会・理事会 石和温泉（2/15）

令和7年度関東・東京合同地区獣医師大会 三学会 山梨（9/7）

令和7年度獣医事功績者表彰候補者は以下の通り

<A 会員 13 名>

山本滋子（足立支部）、猪狩百合子（多摩西支部）、三科 保（豊島支部）

田中直久（北多摩支部）、谷澤浩二（墨田支部）、岸野 寛（多摩西支部）

古谷隆俊（品川支部）、柳原義介（北多摩支部）、渡邊守都（北多摩支部）

浦野岩雄（多摩西支部）、横尾清文（墨田支部）、清水弘美（目黒支部）

酒井道子（練馬支部）

<B 会員 2 名>

尼崎 肇（日獣大支部）、岩田勝雄（共済支部）

東京都獣医師会からの演題申込は以下の通り

【獣医公衆衛生学会】

なし

【産業動物獣医学会】

なし

【小動物獣医学会】

① 中西隼一（Ve. C. 自由が丘動物医療センター）

犬および猫における腹腔鏡補助下胃瘻造設術（LAG）の検討

② 木村太郎（動物外科診療室 東京）

膝蓋骨脱臼整復手術に関連した滑車稜損傷とその整復を実施した小型犬の3例

- ③ 矢澤大輔（日本獣医生命科学大学）  
右上腕骨近位骨幹端に発生した骨肉腫に液体窒素処理自家骨を使用した患肢温存療法を実施した犬の1例
- ④ 鈴木周二（日本獣医生命科学大学）  
血管結紮術により腹水が消失した先天性後腸間膜動静脈瘤の犬の1例
- ⑤ 神野信夫（日本獣医生命科学大学）  
悪性末梢神経鞘腫の広範囲切除を実施したイヌの1症例
- ⑥ 原田恭治（日本獣医生命科学大学）  
膝蓋骨内方脱臼の治療として大腿骨と脛骨に矯正骨切り術を実施したトイ・プードルの1例

発表演題の内、原田恭治先生（日本獣医生命科学大学）が発表された、「膝蓋骨内方脱臼の治療として大腿骨と脛骨に矯正骨切り術を実施したトイ・プードルの1例」が、小動物学会Bにおいて地区学会長賞を受賞し、世界獣医師大会同時開催日本獣医師会年次大会（4/21～24）にて発表を行う。

- オ. 政令指定都市及び東京都獣医師会連絡協議会：川崎市（11/9）
- カ. 他府県獣医師会：神奈川県獣医師会主催 神奈川県下獣医師会及び東京都獣医師会合同会議（3/1・2）箱根  
鳥海 弘（前神奈川県獣医師会会長） 旭日小綬賞受賞祝賀会（9/15）  
草場治雄（福岡県獣医師会会長） 旭日小綬章受賞祝賀会（2/8）
- キ. 家畜衛生防疫対策事業関係：  
産業動物委員会 瑞穂町（3/13）
- ク. その他：  
優等卒業生の表彰 日本獣医生命科学大学 令和7年度学位授与式（3/5）  
東京農工大学 謝恩会（3/25）

- (2) 国際交流関係：  
FASAVA2025（アジア小動物獣医師会大会）韓国大邱大会（10/31～11/2）にて、発表者支援を実施、6名のポスター発表者の渡航費の一部を補助支援した。本大会では295演題のポスター発表が行われた。発表者の中から、池田人司先生、渡辺靖子先生がポスターセッションアワード（受賞者14名）に選出された。

### 3. 催事、学術集会等の実施状況

- ア. 学会、講習会等事業：
  - ・学校飼育動物獣医師養成講座 計3回実施
  - ・令和7年度狂犬病対策検討委員会講習会 日本獣医生命科学大学（3/1）  
「世界で発生している狂犬病の話 狂犬病の今」  
講師：井上智先生、佐藤克先生

イ. 支部学術講習会の計画等：

品川・大田・東京中央獣医師会合同学術講習会「健康診断に必要な眼科検査」・「臨床における点眼薬の選び方と使い方」(11/16)

ウ. 催事：

合同就職説明会 対面形式 ビジョンセンター新宿マインズタワー (10/26)

・参加病院数 15 病院 病院ごとにテーブルにて面談形式

・参加学生数 獣医学生 5 名 動物看護学生 58 名

合同就職説明会 オンライン形式 (3/15)

・参加病院数 13 病院 1 病院 15 分程度のプレゼンテーション

・参加学生数 獣学生 26 名 動物看護学生 49 名

#### 4. 本会が後援等を行ったイベント・キャンペーン・講演会

【後援】

- ・2025 年「ヒナを拾わないで」キャンペーン 野生動物救護獣医師協会
- ・ゾエティスジャパン株式会社 重症熱性血小板減少症候群セミナー  
～今、SFTS についてもう一度考える 獣医師・動物看護師を危険から守る～
- ・第 27 回日本臨床獣医学フォーラム年次大会 2025 JBVP
- ・全国学校飼育動物研究会 第 27 回全国学校飼育動物研究大会
- ・FASAVA2025 韓国大邱大会大会参加ツアー 株式会社南海国際旅行
- ・第 110 回日本獣医麻酔外科学会学術集会 日本獣医麻酔外科学会
- ・第 111 回日本獣医麻酔外科学会学術集会 日本獣医麻酔外科学会
- ・日本獣医麻酔外科学会 東京地区症例検討会
- ・JAHA 年次大会 2025
- ・公益財団法人日本ヘルスケア協会「ペットパスポートプロジェクト」

【協賛】

- ・インターペット 2025 東京ビッグサイト (2025 年 4/4～4/7)

【共催】

明治安田生命保険との包括連携協定「人と動物の共生を通じた健康増進・地域創生」によるイベントを共催

- ・長寿犬猫表彰の表彰状用フレームの提供と対象犬猫の写真を用いたオリジナルアクリルブロック進呈。表彰状申請数：174 病院 2,354 件、オリジナルアクリルブロック申請数：病院 174 病院 470 件
- ・本会会員への特典提供 ルミネ the よしもと、サッカーチケット贈呈

#### 5. 表彰など

- ・公益社団法人東京都獣医師会会長表彰状 第 14 回総会後の祝賀会にて表彰 (6/8)

<A 会員>

谷口 孝 (江東支部)、栗野 悟 (江東支部)、山口伸也 (橄欖支部)

吾妻亮侍 (北多摩支部)、西野 朗 (江東支部)、磯貝寿男 (江東支部)

#### <B 会員>

清水明文（動物薬事支部）、濱田美保子（橄欖支部）

他、第 14 回総会後の祝賀会では、令和 6 年度関東・東京合同地区獣医師大会で表彰された獣医事功績者も名前が読み上げられた。

## 6. その他

### （1）賛助会員ミーティング

第 1 回賛助会員ミーティングは、2025 年 7 月 14 日（月）15 時 30 分より、ホテルルポール麴町にて開催された。賛助会員 43 名、東獣会員 7 名、非会員 3 名、役員 10 名が出席した。本会の事業報告、4 つの分科会のアクション報告と決定事項について、そして株式会社船井総合研究所 動物病院経営コンサルティングユニットチーフコンサルタント 越後谷 晃大氏より「令和時代の動物病院における集客戦略」についての講演があった。その後、同ホテルにて懇親会が開催された。

第 2 回賛助会員ミーティングは、2026 年 3 月 26 日（木）午後 2 時より、ビジョンセンター品川にて開催された。賛助会員 47 名、東獣会員 4 名、役員 6 名が出席した。本会の事業報告、4 つの分科会の中からペットの価値向上チームの企画で開催された「お絵かきひろば」（動物感謝デー11/15）の報告がなされた。続いて、セゾンペット株式会社 清水淳氏より「動物医療のオンライン診療 -3 年間の実践から見えた 可能性と課題」についての講演があった。最後に、4 社の賛助会員が企業紹介を行った。ミーティング終了後、場所を移し、本会勝島支部がある大井競馬場「ダイヤモンドターン」にて情報交換会が開催され、午後 7 時を以て終了した。

### （2）その他

#### ・ウクライナ避難者の同行動物への診療対応

農林水産省、日本獣医師会の要請により、2022 年 6 月から本会会員の協力による獣医療支援を実施。支援に係る費用は日本獣医師会が全国の獣医師会から集めた支援金から支出している。2025 年に関しては、多摩西支部（犬 6 回）、北支部（犬 4 回）の診療対応を行い、継続支援中である。

#### ・八丈島台風災害に伴う被害状況と支援対応

台風 22 号、23 号により被害が生じた八丈島には、本会会員病院 2 軒があった。発災直後、1 つの会員病院が 3 組の飼い主から 7 頭の猫を一時預かりしていた。避難指示が解除となり、2 組の飼い主には猫を戻した。家屋が全壊した飼い主があったが、みなし仮設住宅でのペット飼育が認められなかった為、猫 5 頭を長期に預かることとなった。そこで本会から被災飼い主への支援として、猫の一時預かり費用の一部を支給し、飼育用品（フードやトイレ用砂等）を送付した。また、八丈島町長に対し、みなし仮設住宅でのペット受け入れにつき、緊急時の暫定的措置として対応いただくよう申し入れを行った。

#### ・災害発生時の互助システムについて

大規模災害発生直後、本部⇄支部間の災害対応体制が整うまでの間、近隣の会員同士が互助により支えあう仕組みとして、賛助会員の協力を得て、被害状況が相互に確認できるシステム「会員間互助システム（RIMOT）」を開発した。58 名（ブロック長、各支部の支部長及び災害担当者、VMAT 隊員等）を対象に説明会を実施した（8/28）。町田支部、八王

子支部はトライアル運用を開始した。また、会員が普段使い慣れている LINE (LINE WORKS) を用いた連絡網の整備についても互助システムの一環として開発を進め、情報が会員ひとりひとりに届くよう対応中である。

- ・小笠原フォトコンテスト実施報告

小笠原ノネコ保護活動事業 20 周年と賛助会員である富士フィルム VET システムズ株式会社 創立 30 周年を記念した保護猫フォトコンテスト企画が開催された。8 月 1 日～10 月 31 日までの募集期間で総計 86 件の応募があった。「第 2 のニャン生を過ごしている瞬間」を選考基準として、選考会を実施した (11/20)。大賞 1 点、獣医師会賞 1 点、社長賞 1 点、入選 10 点を選出され、記念品が贈呈され、HP で公表された。

## 7. 本会組織の会員状況

本会組織の会員状況

令和7年度末会員数は、A会員名553名、B会員439名、計992名である。

年度内の入会は30名、退会49名（逝去3名含）、長寿会員66名のうち、会費免除高齢会員57名であった。（会員の内訳は表参照）

| 地域        | A会員        |            |      | B会員        |            |     | 計          |            |      |
|-----------|------------|------------|------|------------|------------|-----|------------|------------|------|
| 支部        | 7年度<br>会員数 | 6年度<br>会員数 | 増減   | 7年度<br>会員数 | 6年度<br>会員数 | 増減  | 7年度<br>会員数 | 6年度<br>会員数 | 増減   |
| 中 央       | 28         | 27         | 1    | 12         | 12         | 0   | 40         | 39         | 1    |
| 文 京       | 12         | 12         | 0    | 1          | 1          | 0   | 13         | 13         | 0    |
| 新 宿       | 17         | 17         | 0    | 13         | 14         | △ 1 | 30         | 31         | △ 1  |
| 中 野       | 12         | 13         | △ 1  | 1          | 1          | 0   | 13         | 14         | △ 1  |
| 杉 並       | 34         | 39         | △ 5  | 11         | 13         | △ 2 | 45         | 52         | △ 7  |
| 世田谷       | 52         | 53         | △ 1  | 35         | 35         | 0   | 87         | 88         | △ 1  |
| 渋 谷       | 8          | 8          | 0    | 1          | 1          | 0   | 9          | 9          | 0    |
| 目 黒       | 21         | 21         | 0    | 7          | 8          | △ 1 | 28         | 29         | △ 1  |
| 大 田       | 37         | 37         | 0    | 11         | 12         | △ 1 | 48         | 49         | △ 1  |
| 品 川       | 16         | 17         | △ 1  | 10         | 6          | 4   | 26         | 23         | 3    |
| 勝 島       | 6          | 6          | 0    | 2          | 2          | 0   | 8          | 8          | 0    |
| 江 東       | 15         | 16         | △ 1  | 0          | 0          | 0   | 15         | 16         | △ 1  |
| 墨 田       | 15         | 16         | △ 1  | 3          | 2          | 1   | 18         | 18         | 0    |
| 城 北       | 20         | 21         | △ 1  | 1          | 0          | 1   | 21         | 21         | 0    |
| 葛 飾       | 19         | 21         | △ 2  | 1          | 1          | 0   | 20         | 22         | △ 2  |
| 江戸川       | 20         | 21         | △ 1  | 6          | 7          | △ 1 | 26         | 28         | △ 2  |
| 足 立       | 15         | 15         | 0    | 1          | 1          | 0   | 16         | 16         | 0    |
| 北         | 6          | 7          | △ 1  | 0          | 0          | 0   | 6          | 7          | △ 1  |
| 豊 島       | 13         | 14         | △ 1  | 1          | 1          | 0   | 14         | 15         | △ 1  |
| 板 橋       | 8          | 9          | △ 1  | 2          | 2          | 0   | 10         | 11         | △ 1  |
| 練 馬       | 30         | 31         | △ 1  | 8          | 8          | 0   | 38         | 39         | △ 1  |
| 武蔵野三<br>鷹 | 12         | 12         | 0    | 3          | 2          | 1   | 15         | 14         | 1    |
| 北多摩       | 29         | 30         | △ 1  | 6          | 6          | 0   | 35         | 36         | △ 1  |
| 多摩東       | 22         | 22         | 0    | 1          | 1          | 0   | 23         | 23         | 0    |
| 南多摩       | 13         | 13         | 0    | 2          | 2          | 0   | 15         | 15         | 0    |
| 八王子       | 15         | 16         | △ 1  | 2          | 2          | 0   | 17         | 18         | △ 1  |
| 町 田       | 19         | 20         | △ 1  | 1          | 1          | 0   | 20         | 21         | △ 1  |
| 多摩西       | 39         | 39         | 0    | 4          | 4          | 0   | 43         | 43         | 0    |
| 小 計       | 553        | 573        | △ 20 | 146        | 145        | 1   | 699        | 718        | △ 19 |

| 職域        | B会員        |            |     |
|-----------|------------|------------|-----|
| 支部        | 7年度<br>会員数 | 6年度<br>会員数 | 増減  |
| 農水省       | 2          | 2          | 0   |
| 動薬検       | 0          | 0          | 0   |
| 都産労       | 5          | 5          | 0   |
| 都公衆衛<br>生 | 20         | 22         | △ 2 |
| 東 大       | 11         | 11         | 0   |
| 農工大       | 17         | 18         | △ 1 |
| 日獣大       | 29         | 29         | 0   |
| 生物医学      | 17         | 15         | 2   |
| 日生研       | 4          | 4          | 0   |
| 松 研       | 3          | 2          | 1   |
| 中央競馬      | 2          | 2          | 0   |
| 共 済       | 8          | 8          | 0   |
| 動物薬事      | 28         | 28         | 0   |
| かんらん      | 147        | 147        | 0   |
| 小 計       | 293        | 293        | 0   |

| 令和7年度<br>会員数 | A会員 | B会員 | 合計  |
|--------------|-----|-----|-----|
|              | 553 | 439 | 992 |

| 東京都獣医師会総会員数 |      |      |      |
|-------------|------|------|------|
|             | R7年度 | R6年度 | 増減   |
| 総計          | 992  | 1011 | △ 19 |

## Ⅱ 事業実施報告

### Ⅰ. 公益目的事業

#### 1. 都民公開シンポジウム開催事業

令和7年度は実施していない。

#### 2. 狂犬病予防対策推進事業

狂犬病予防法に基づき狂犬病予防注射事業を実施した。令和7年度集合注射における接種頭数は70,171頭の実績となった。令和6年度比 98.9%、730頭減少となった。

万が一の発生時には早期探知が行えるよう狂犬病に関する知識の普及・啓発事業を推進し、併せて発生予防を図り、もって公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に努めるために以下の事業を行った。

#### 2ーア. 都民に対する狂犬病に関しての情報提供と周知；

本会が制作した動画「東京を守ろう」を引き続きインターネット上で公開し、狂犬病予防注射の必要性について啓発活動を継続実施した。

#### 2ーイ. 犬の飼育者に対する狂犬病予防の啓発及び適正な飼育指導；

勝島支部を除く27地域支部の動物診療施設において犬の飼育者に対し狂犬病予防を啓発するとともに、咬傷事故防止のための適正飼育を指導し、狂犬病予防法の遵守とその重要性を周知するなど、年間を通じ地域支部による地元に着した啓発活動に取り組んだ。また、狂犬病支部担当者会議において、各支部における課題を共有し、今後の啓発活動における情報交換の場を設けた。

#### 2ーウ. 獣医師に対する知識及び診断技術の周知並びに情報提供；

狂犬病支部担当者会議・講習会が、2026年3月1日（日）午後1時より、日本獣医生命科学大学にて開催された。支部長又は狂犬病担当者（31名）が参加した。担当者会議ではインボイス制度導入に伴う消費税の対応について、各支部より意見を聞いた。その他、集合注射事業に係わる様々な課題が共有された。その後の講習会では「世界で発生している狂犬病の話 狂犬病の今」というタイトルで、井上智先生（国立感染症研究所）と佐藤克先生（東京都獣医師会板橋支部）が講演された。講習会には、本会所属の獣医師に加え、行政機関や大学、研究所、企業に所属する獣医師の参加があった。

#### 2ーエ. 狂犬病予防注射接種率と登録率の向上促進；

令和7年度において、27地域支部のうち狂犬病予防定期集合注射を実施したのは26支部であり、中止した自治体は2自治体であった。予防接種実施時に、飼育者に対する啓発を行い、そして地方自治法施行令第158条の規定に基づき行政事務を受託し動物病院での登録受けおよび注射済票交付などを通じ、飼い犬の登録率および狂犬病予防注射の接種率を向上させるよう努めた。

また、狂犬病予防注射離島対策事業として、島嶼に対してはヘリコプター等を使用し、会員獣医師を現地に派遣して狂犬病予防注射活動を実施した。

## 2-オ. 都民が飼育する犬に対する狂犬病抗体価調査；

令和7年度は実施していない。

## **3. 災害時の動物救護支援に関する事業**

本会内には災害、人と動物の共通感染症発生時の初動活動に即時対応可能な危機管理室が設置されている。各セクションでは非常時に備えて継続して次の対策事業を実施した。

### 3-ア. 危機管理・災害対策事業；

8月31日(日)、令和7年度東京都・羽村市・日の出町合同総合防災訓練が羽村市・日ノ出町の2か所で開催された。東京都総務局総合防災部と羽村市からの要請を受け、多摩西支部（長崎先生、篠崎先生、馬場先生、木村先生）は午前中から、宮下運動公園（羽村市）でのペット同行避難訓練に参加した。午後には、東京VMAT谷川先生（中野支部）、危機管理室磯先生、藤本先生、東獣から高橋副会長、入交理事、平井顧問も参加し、日ノ出町民グランドでの防災訓練にて普及啓発活動を行った。

### 3-イ. 危機管理・感染症対策事業；

動物を介した新興感染症や人と動物の共通感染症の発生防止とまん延、拡大防止に役立つ対策情報や発生情報等を都度発信し、公衆衛生対策の向上および公共の健康福祉増進に寄与した。感染症対策セクションより以下の情報について、支部長連絡および一斉メールでの周知並びに本会HPでの公開を行い、正しい情報の周知に努めた。

- ・「馬インフルエンザの発生に係る防疫対策の徹底」（4/25）
- ・「SFTSに関する報告書」（6/12）
- ・「妊産婦がオウム病に罹患・死亡したとの報道を受けて」（6/14）
- ・「茨城県での猫SFTS陽性確認について」（6/23）
- ・「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について」（7/16）
- ・「野生いのししにおける豚熱感染確認と対策の強化について」（8/22）
- ・「SFTS疑い事例の飼い主への説明と診療同意書について」（9/1）
- ・「令和7年度都内会員病院での犬のレプトスピラ症発生の報告」（10/3）
- ・「医療従事者向け「重症熱性血小板減少症候群（SFTS） 診療の手引き 2025年版」等の周知について」（11/26）

## **4. 獣医公衆衛生対策推進事業**

### 4-ア. 動物由来感染症モニタリング事業；

東京都の委託を受け、人と動物の共通感染症の定点把握を継続実施した。

①皮膚糸状菌症 ②疥癬 ③回虫症 ④コリネバクテリウム感染症 ⑤犬ブルセラ症（犬のみ）⑥トキソプラズマ症（猫のみ）については、都内全域を対象に地理的な偏差が出ないように設定した会員病院20施設において来院する動物から検査サンプルを採取した。

結果として令和7年度においては、20病院の診療頭数（犬66,142頭、猫36,085頭）の内、①皮膚糸状菌症（犬15頭、猫30頭）、②疥癬（犬0頭、猫0頭）、③回虫症（犬2頭、猫5頭）、④コリネバクテリウム感染症（犬4頭、猫1頭）、⑤犬ブルセラ症（犬のみ・0頭）、⑥トキソプラズマ症（猫のみ・4頭）の合計 犬21頭、猫36頭の陽性検体が確認された。

また、腸管出血性大腸菌（EHEC）、薬剤耐性大腸菌、SFTSウイルスについては、協力病院の内、6病院によりサンプリングを行った。SFTSウイルスについては、月に1検体3か月（9月～11月）6病院18検体すべて陰性であった。検査に当たっては富士フィルムVETシステムズ株式会社と東京都健康安全研究センターの協力を得た。

#### 4-イ. 人と動物の共通感染症及び食の安全対策事業；

「獣医公衆衛生学術振興事業（東京都補助）」により、獣医公衆衛生委員会と合同で、以下の事業を実施した他、獣医公衆衛生に係る関係官庁等からの公示、通知等の情報を本会ウェブサイト及び東獣ジャーナルを通じて会員等に迅速に広報を行った。

##### ① 人と動物の共通感染症対策検討委員会開催

第1回(10/17)、第2回(12/23)、第3回(2/24)

第2回より合同委員会オブザーバー塗木貴臣先生（TRVA 動物医療センター）参加

##### ② 都内 SFTS 対応状況実態調査の実施

(1) 都内獣医大学（2次診療施設）への SFTS 対応状況実態調査

(2) 都内動物病院への SFTS 対応状況実態調査

(3) 京都府獣医師会 SFTS アンケート結果共有

##### ③ 飼い主向けの啓発ポスターの作成

##### ④ 「SFTS 疑いネコ・イヌの診療簡易マニュアル」の改訂版発行

#### **5. 学校動物飼育対策推進事業**

小学校学習指導要領に則り実施される教育施設での動物飼育を通して、児童への情操教育や科学教育、及び動物愛護精神の育成を支援した。

また人と動物の共通感染症に対する予防および啓発活動を通して当該事業が安全に実施されるよう努め、以下の事業を行った。

#### 5-ア. 学校に対する学校飼育動物関連知識の普及啓発及び適正な飼育指導；

学習指導要領解説に示された通り、児童が学校飼育動物に心を寄せ、愛着を持って接するとともに、生命あるものとして世話することができる飼育活動の実現をめざして、学校飼育動物の適正な飼育方法等の指導活動を、支部委託事業として都内全域において行った。

行政などから依頼のあった学校及び教育委員会に対して本会から講師を派遣した。

講師派遣により、感染症対策や学校飼育動物の適正な飼育方法の指導や児童や教員に対する講習会を開催することで学校飼育動物関連知識の普及啓発に努めた。

また、学校動物飼育の支援等に寄与するため、地域支部において学校飼育動物の施療や飼育指導を実施し、また学校動物飼育に関わる情報提供に努めた。

#### 5-イ. 学校獣医師養成講座；

全国の担当者と意見交換を行い、知識などの向上のため日本獣医師会の動物福祉・愛護

部会 個別委員会学校動物飼育支援対策検討委員会及び動物福祉・愛護部会 学校動物飼育支援対策検討委員会に参加した。

#### 【内 容】

会 場：ビジョンセンター西新宿

会 費：第1部無料、第2部有料（会員2,000円／非会員3,000円／学生 無料）

開催形式：会場（対面）、見逃し配信（年度末に3回分まとめたの配信）

#### 第1回

開催日時：令和7年9月14日（日）15：30～18：30

開催形式：会場（対面）、見逃し配信（各回終了後、本会YouTubeにて配信）

内 容：・第1部（無料）「学校飼育動物の意義及び実際について」

中川 清志先生（（公社）東京都獣医師会 副会長）

・第2部（有料）「モルモットについて」

田向 健一先生（田園調布動物病院 院長）

・懇親会

事前申込者数：31名 当日会場参加者：21名（支部担当者18名を含む）

#### 第2回

開催日時：令和7年11月16日（日）15：30～18：30

開催形式：会場（対面）、見逃し配信（各回終了後、本会YouTubeにて配信）

支部担当者会議も兼ねる

会 場：ビジョンセンター西新宿 202号室

内 容：・第1部（無料）

「学校で哺乳類・鳥類を飼育することにより期待される子供たちへの効果について」 中島 由佳先生（大手前大学 現代社会学部 教授）

・第2部（有料）「チャボについて」

小嶋 篤史先生（鳥と小動物の病院リトルバード 院長）

・懇親会

事前申込者数：32名 当日会場参加者：20名（支部担当者13名を含む）

#### 第3回

開催日時：令和8年1月18日（日）15：30～18：30

開催形式：会場（対面）

支部担当者会議も兼ねる

会 場：ビジョンセンター西新宿 308号室

内 容：意見交換会

ファシリテーター（宮下理事）

アドバイザー（田向先生、小嶋先生）

事前申込数：31名 当日会場参加者：15名（支部担当者8名を含む）

#### 5-ウ. 動物飼育作文コンクール；

品川支部の事業として児童の心と身体の健全な育成のために、動物飼育作文コンクールを行った。優秀作品を中川副会長より表彰した。（2/2）

#### 5－エ．小学校動物飼育推進校事業（都委託事業）；

東京都教育庁の委託を受け、該当する地域支部の会員の協力を得て、都内5つの推進校（中野区立上鷺宮小学校・小平市立第九小学校・渋谷区立幡代小学校・八王子市立宇津木台小学校・青梅市立第七小学校）において、生徒と担当教師を対象とし、①衛生管理指導 ②体験活動事業 ③研修会事業 ④動物由来感染症発生時対応事業 ⑤埋葬事業を実施した。

また、事業の適正な推進と発展のため、課題の抽出や今後の対策の検討を行うとともに、活動報告会を開催し今後の継続的な取り組みのための礎とした。事業が継続されることにより、各学校ともに学習指導要領に則った飼育（1、2年生による継続飼育）実践方法の研究がなされるようになった。

#### 5－オ．学校飼育動物埋葬に関わる事業；

児童の健康と安全を守るため、80校・93件の学校飼育動物の死亡に際して担当動物病院で検案実施後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との間で締結した「学校飼育動物の埋葬に関わる協定」に基づき適切な埋葬をおこなった。

以上のことにより学校飼育動物の死亡に際し児童の心身の安全を確保し、学校及び児童が身をもって生命の尊さを感じる事ができるよう支援した。

### **6．動物愛護啓発事業**

#### 6－ア．催事における啓発事業；

日本獣医師会が主催する全国動物愛護週間中央行事・日本獣医師会主催「2025 動物感謝デー in Japan “World Veterinary Day”」は、11月15日（土）に上野恩賜公園にて開催された。本会は動物救護所と併せ、小笠原自然環境保護事業のPR、本会ワンヘルス普及啓発委員会の企画による「ワンヘルス〇×クイズ」とワンヘルスのリーフレットとノベルティ（オリジナル絆創膏）の配布、そして賛助会員「ペットの価値向上」分科会による「お絵かきひろば」を実施した。中でも「お絵かきひろば」には、初の試みにもかかわらず、100名以上の子供達が参加し、96作品の応募となった。後日、理事会賞、賛助会員賞を選出し、HP等にて広報し、本会より賞品を贈呈した。

適正飼育支援の一環として15歳以上の犬猫を対象とした長寿犬猫表彰を行った。令和7年度は174病院、2,354件の申し込みがあり、表彰状と併せて、明治安田生命より表彰状用額縁がプレゼントされた。更に希望者にはペットの写真・名前が入れられるオリジナルアクリルブロックの配布が行われた。オリジナルアクリルブロックについては174病院470頭の申請があり、後日贈呈された。

『動物のいのち救済基金』募金については、当年263,072円の寄付があり、募金残高は21,974,136円（2026年3月31日現在）となっている。『動物のいのち救済基金』の活動の一つ「災害対策事業」として作成したペット防災BOOKをインターネットにて継続して配布した。同じく『動物のいのち救済基金』を活用した活動のひとつである“高齢者の動物飼育支援事業”「飼い主とペット（犬猫）の年齢を足して80歳以上」においては、町田支部から申請があり「公益社団法人東京都獣医師会会員病院専用特別診療券（1,000円券）」を提供した。

#### 6ーイ．ネコの不妊去勢手術及び助成に関わる事業；

動物の適正飼養の推進を図るため、それぞれ支部地域において市区町村の助成を受けて、飼い猫や飼い主がいない猫の不妊去勢手術を実施した。

令和7年度の御蔵島からの猫の保護・譲渡実績は6頭であった。

#### **7．医療廃棄物等適正処理活動事業**

獣医療に伴って排出される医療廃棄物の適正処置と安全な取り扱いについて、東京都医師会が主催する「医療廃棄物処理研修会」オンライン開催等の情報提供や知識の普及啓発を行った。また、不正処理により摘発された業者に関する情報を、逐次、本会ホームページや東獣ジャーナルに掲載して動物診療施設を管理する獣医師に対し、適切な情報の提供に努めた。

#### **8．身体障がい者支援活動事業**

令和7年度については、現金での募金の回収を重ねた結果、まとまった原資となったことにより、「身体障がい者補助犬診療券」3万円×150頭分を発行し、東京都福祉保健局より都内居住の身体障がい者の方々へ送付いただいた。結果として2,457,000円の支給となった（2026年3月31日現在）。会員には引き続き、「ひかりの箱募金」の募金箱（現金）での募金停止の広報を継続して行っている。新しい募金のあり方については検討を重ねている。

#### **9．夜間診療活動及びマネジメント事業**

夜間に状態が急変するなどしたペットの飼育者が本会ホームページの掲載情報により、電話相談や受診ができるよう、夜間診療対象動物病院の情報掲載と電話アナウンスによる飼育支援を行った。

#### **10．小笠原自然環境保護活動事業**

小笠原諸島に生息する希少野生鳥獣の保護と自然環境を守るために、本会会員の協力の下、ノネコ保護、獣医師派遣事業等を行っている。本事業の保護対象動物であるアカガシラカラスバトは順調にその個体数を回復し、一時壊滅したカツオドリの営巣地でも巣立ちが確認され、地道な取り組みが功を奏していることが確認されたが、母島などに生息している、日本固有種のオガサワラカワラヒワの生息数が400個体以下と絶滅の危険性が高くなっていることが明らかになった。その為、母島でのノネコの捕獲を強化する必要性が指摘されており、本会においても、これまでと同様にノネコの引き受け・譲渡を推進した。

#### 10ーア．保護されたノネコの保護活動事業；

小笠原村、東京都、環境省等と協力し、小笠原諸島固有のアカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリ等希少在来種、繁殖地の保護を目的に、地元で捕獲されたノネコを会員動物病院で引き取り、馴化、健康管理の後、希望する一般家庭へ譲渡する活動を継続して実施した（令和7年度40頭、累計捕獲頭数1,285頭うち都内搬送頭数1,168頭）。

東京都からの委託事業「ノネコ搬送に伴う感染症対策等委託」においては、令和5年度から1頭当たり67,000円に委託費が増額されている。

#### 10-イ. 小笠原諸島現地視察活動事業；

令和 7 年度は実施せず

#### 10-ウ. シンポジウム・講演会等による自然環境保護の啓発事業；

小笠原自然遺産の保護・保全に関する知識の普及啓発活動として、東獣ジャーナル、ホームページ等の広報活動を通じて、恒久的な自然環境保護への理解向上に努めた。

### **11. 傷病野生鳥獣保護活動事業**

東京都の委託を受け、都民によって動物病院に持ち込まれた傷病野生鳥獣について救護、治療活動を実施した動物病院に治療費を支援する「傷病野生鳥獣保護活動事業」を実施した。

令和 7 年度実績は 109 件であった。一方、委託対象にはなっていないドバト、カラス等 42 件については、動物の命に違いはないことから、保護治療を本会からの助成により実施した。

なお、委託対象外鳥獣においては、令和 3 年度まではカラス、ドバト、ひな、鳥獣、ペット及び外来種とされていたが、令和 4 年度からはニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、タヌキ、カラス（ハシボソガラス、ハシブトガラス）、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、カワウが加えられた。令和 5 年度には一旦ウミネコが対象外に追加となったが、令和 6 年度にウミネコは保護対象に戻った。

また、治療後死亡した 40 件については、会員病院での検案の後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との協定に基づき埋葬した。

さらに、当該傷病野生鳥獣の罹患する疾病のデータを蓄積し、当該データを東京都等に提供することによって、今後の感染症対策に繋がるよう継続して資料収集に努めた。

### **12. 学会・講習会活動事業**

(1) 東京都獣医師育成対策委託事業は「獣医療広告適正化検討委員会」を設置し、令和 6 年 4 月から改訂された獣医療広告制限の変更点の周知及び獣医療広告のトラブルを防ぐことを念頭に置き、

①獣医療広告は、獣医師法、景表法、薬機法が絡み、複雑ではあるが、できるだけ分かりやすく解説をすること

②今年度は主にウェブ上の広告に関し、違反広告・適正広告の見本などを用いて、具体的に解説すること

③獣医師が広告掲出に不安を感じることなく、安心して社会に役立つ情報が発信できるようにすることという方針を立て、以下を実施した。

1) 録画配信による講習会の実施 (20 分×2 本)

第 1 部

～NG 事例で分かりやすく禁止事項を解説～

「あなたの HP は大丈夫？」

講師：田村勇人×伊藤優真

内容：インターネット上で見られる NG 事例をとりあげ、何が法に抵触するのか、この情報発信によって、どのような飼い主の混乱等の弊害が生じるのか等、広告自体の問題に加え、波及するトラブルについても言及し、適正な情報発信のポイントを解説した。

## 第2部

～適正な広告で飼い主に有益な情報発信をしよう～

「こんなHPならOK！」

講師：田村勇人×藤田道郎×井上舞

内容：広告規制は一部緩和されている。HPへの掲載が可能となった獣医師の有する資格（認定・専門獣医師）の解説や、分かりやすいHPの特徴等、トークセッション形式で解説した。

### 2) 啓発冊子の作成

「適正な広告で飼い主に有益な情報発信を！」という冊子を作成し、都内2029軒の動物病院に配布した。

(2) 三学会活動；令和7年度関東・東京合同地区獣医師大会・三学会が、9月7日（日）に山梨県中巨摩郡昭和町アピオタワー館で開催された。獣医事功績者表彰として本会からは15名の先生の表彰がなされた。また、三学会の小動物学会において6名の先生が演題発表をした。審査の結果、小動物獣医学会Bで発表した原田恭治先生（日獣大獣医外科学教室）の「膝蓋骨内方脱臼の治療として大腿骨と脛骨に矯正骨切り術を実施したトイ・プードルの1例」が地区学会長賞を受賞し、令和8年4月21日～24日に開催される世界獣医師大会・日本獣医師会獣医学術学会年次大会（東京国際フォーラム）にて発表することとなった。

(3) 学術国際交流活動；FASAVA2025(アジア小動物獣医師会大会)韓国大邱大会が、10月31日～11月2日に開催され、本会からは会長並びに担当理事が参加した。また令和7年度からの試みである、演題発表を行った6名の会員の渡航費の一部補助を行った。本大会では295演題のポスター発表が行われた。池田人司先生、渡辺靖子先生がポスターセッションアワード（受賞者14名）に選出された。

(4) 日本獣医師会による講習会；

小動物臨床講習会 狂犬病講習会「世界で発生している狂犬病の話」(3/1)

(5) 支部学術講習会；

品川・大田・東京中央獣医師会合同学術講習会「健康診断に必要な眼科検査」・「臨床における点眼薬の選び方と使い方」(11/16)が開催された。

## 13. 広報活動事業：

本会活動の透明性を図るために、本会の事業全般に関わる包括的情報を広く一般都民及び獣医師に広報し、都民及び獣医師がこれら情報の内容を十分に享受できるよう、次の広報活動に努めた。

(1) 東獣ホームページの充実：

関心の高い獣医事に関する諸情勢、学術調査の結果並びに研究成果、動物の疾病、治療並びに必要な保健衛生指導等、都民や動物の飼育者に対して必要な情報を掲載する本会ホームページリニューアルを行った。

(2) 機関紙（東獣ジャーナル）の発行：

公益目的事業の活動報告、獣医事関連法規、獣医事に関する諸情勢、学術研究の調査結果等の必要な情報の収集と開示に努め、獣医師の専門知識研鑽に寄与するため、東獣ジャーナルの年4回刊行（紙媒体1月、7月とWeb媒体4月、10月）し、掲載情報の充実に努めた。また、時流に即した特集を企画し、より読みやすい誌面とするように図るとともに、PC等で閲覧できるようにWeb版も充実させた。

【特集】

No.615（2025.4）Web版 『特集 人と動物のよりよい共生社会のために』

No.616（2025.7）冊子版 『特集 明日から役立つ 獣医師のメンタルヘルス対策』

No.617（2025.10）Web版 『特集 動物病院がなぜ事業承継をするのか』

No.618（2026.1）冊子版 『特集 その診療は世界につながる。来るぞ、世界獣医師会大会』

#### 14. 家畜衛生防疫対策事業

令和7年度産業動物委員会が3月13日（金）に開催され、遠隔診療の導入状況、産業動物獣医療体制確保対策等についての情報・意見交換を行った。

#### 15. 医療事故防止セミナー開催事業

令和7年度は獣医療広告適正化検討委員会を設置し、令和6年4月から変わった獣医療広告制限の変更点の周知及び獣医療広告のトラブルを防ぐため、配信による講習会（20分×2本）を実施した。また「適正な広告で飼い主に有益な情報発信を！」という冊子を作成し、都内2029軒の動物病院に配布した。

## Ⅱ. 収益事業及びその他の事業

### (1) 不動産の貸し付けに関する事項

本会は、本会の組織基盤を充実させ、適切なる本会事業を推進していくため、不動産の貸し付け事業を実施し、経済的基盤の充実に努めた。

### (2) 福利厚生事業

「福利厚生事業要綱」により家族調査を実施し、加入獣医師及びその家族を対象として、次のとおり給付事業を行った。

#### 1) 共済給付

①弔慰金 8件 ②傷病見舞金 5名 総計15回 ③災害見舞金 1件  
④結婚出産祝金 2件 ⑤同窓会参加補助費 4件 10名分

#### 2) 旅行保険の加入 なし

#### 3) 無受給退会者への記念品贈呈 10件

### (3) 入会促進（組織率向上対策）

獣医師が担う獣医療提供の質が全体的に高位に確保できるよう、関係大学獣医学科に就学する学生、新規免許を取得した獣医師、まだ会員として所属しない開業獣医師（非会員）等に対して積極的に入会促進を図り、組織率の向上に努めた。本会の活動を分かり易く紹介するリーフレット「動物と共に歩んで…東京都獣医師会のご案内」を配布し、入会を促進した。

また2026年3月5日に開催された日本獣医生命科学大学 令和7年度学位授与式には高橋恒彦副会長が、2026年3月25日に開催された東京農工大学共同獣医学科 令和7年度謝恩会には上野弘道会長が出席し、獣医学科優等卒業生を表彰、併せて獣医師会の活動等に関する情報提供を行い、入会促進を行った。

新規入会した会員に対しては総会において紹介し、所属会員の章（会員プレート）を交付するとともに、関係法令の遵守、獣医療倫理、獣医療過誤防止とインフォームドコンセントの徹底、適切なカルテの記述、適切な広告のあり方等を周知し、飼い主から信頼される質の高い適切な獣医療の体制の確保に努めた。

組織力強化対策の一環としての新たな取り組みである疼痛管理と麻薬の取り扱い知識向上と併せた入手経路の安定化に向け、業界団体との交渉も進み、開設場所の調整が進んだ。

令和6年度から開始した会員制度の見直しについては、アンケート調査により、広く会員の意見を求め、課題解決にむけ対策の検討を進めてきた。

組織力強化の視点では、令和7年度総会決議により団体賛助会員に加えて個人賛助会員を設けた。賛助会員においても本会の公益事業に参加できるようにするとともに、地域支部活動への本会B会員及び個人賛助会員の参加の可能性等を検討している。

また、会員数の減少対策と入会促進を視野に、新規に診療施設開設した直後の会員と、一時活動を休止する会員に対し、入会促進や在籍継続支援策の一つとして、期間を定め会費の一部免除等、様々な検討を進めてきた。

賛助会員106社の協力を得て、本会会員特典として、勤務スタッフも含めた健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に

際しての割引サービスの提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と入居費用に係る割引の適用、病院ホームページ制作の割引料金の提供、会員個人の生活や病院運営の一助となる様々な特典提供など、会員特典の充実に積極的に取り組んできた。

**(4) その他、予防接種証明書等販売事業**

適切な獣医療の提供を図るため、犬及び猫の各種ワクチンを網羅した予防接種証明書を印刷作成し頒布した。

**(5) 事務受託事業**

会員の福利厚生に資することを目的に、保険加入等の斡旋業務等を行った。